

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族と共に、その人のもっている力を大事にしたケアを行います」「安心して落ち着いて生活出来る環境作りを行います」という理念を掲げ、利用者の不安やストレスの除去に努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎの時に必ず声に出し復唱することにより、毎日意識が持てるようになり、理念の意味を理解しながら実践に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族と共に安心して落ち着いて生活出来る環境作りを行う為に、なじみのある場所への外出を働きかけている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域で行なわれている清掃活動に入居者と参加することで隣近所の方とふれ合い、また運営推進会議で区長や民生委員へグループホームのことを理解してもらえるよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体にて夏祭りを開催しており、地域の方々が多数集まってきたり。また、地域の清掃活動や年3回保育所への訪問等、地域の人達との交流を図っている。ボランティア等の受け入れも積極的にこなしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方から認知症に関しての相談があれば、電話やホームで対応し役立つ手助けをしている。また道路等の清掃を行なう機会を設け、地域に密着した活動を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点についてカンファレンスや勉強会をしたり、職員一人一人がいつでも見れるように資料を準備し手にとりやすいところにおいて理解を深め、改善に努めている。また、自己評価についても、スタッフにまず記入してもらい、日々の業務を見直す機会を得ている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議以降の企画報告・レクレーション等を行い、入居者家族・民生委員・市役所の方から要望や意見がないか尋ね、会議後は必ず反省会をし次の会議や日常のサービス向上に活かせるようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことや疑問に思う点があれば、スムーズに解決できるよう電話や窓口にて積極的に相談を行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料等を皆で読んだり分からない時は社会福祉士に尋ねたりして理解に努めている。資料は事務所に常備しており、相談があった時にそれを利用して、説明できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修にて、倫理等を学び資料を用いて虐待に関する事を定期的に振り返りながら介護を行なっている。また、家族に対してストレスの緩和やケアについての知識を提供すること等により、虐待防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、まず最初に必ず家族に契約書を読んでいただき、その後不安・疑問などないかを尋ね、十分な説明を行い、きちんと理解・納得をされてから契約書にサインをしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関前にふれあい箱を設置し、月に1度確認している。意見があるときには全スタッフに伝え、運営推進会議などの機会を利用し、家族や民生委員・市役所職員へも伝えるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホームだよりを作成して事務所のカウンターに置いており、家族がいつでも見れるようにしている。また、家族の面会時には必ず声かけをし、利用者の日々の様子を報告している。緊急を要す際は、こちらから家族へ電話を入れている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満等、直接言いにくいこともあると考え、玄関の外に「ふれあい箱」を設置して対応している。又苦情相談窓口を設け苦情があった際は記録に残しカンファレンスを開き改善に努めている。更に運営推進会議で市役所や民生委員等へ報告する機会を設けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に相談を行なえる環境になっている。また、運営者にも、月に1回運営会議が設けられている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯に対し人員を多くするなどの配慮がある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できる限り、異動が行なわれないように配慮がある。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>年齢、性別にての排除はない。なれないスタッフに対しては、プリセプターの活用を計画的に行なわれている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>常に、意識づけを行う為に、資料を用い話しを行なっている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育委員会があり新人の教育プログラムがある。また、月に2回以上研修が行なわれており勉強を行なえる環境がある。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>電話などを活用し相談を行なっている。同業者の意見を聞くことが出来ている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>いつでも相談できる環境が整えられている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	意識の向上に努め、研修の予定等をスタッフにすすめるなど、勤勉意欲が湧くような働きかけを行なっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居するまでの経緯は相談員が対応し、その内容をふまえて入居してからは本人の不安を取り除くこと、要望をできるだけ受け止める事などができるように職員一人一人が聞く機会を多く取り、情報を共有し信頼関係につながるよう努めている。		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	機会ある毎に家族に意見を聞き、何かあれば全スタッフへ伝え、必要に応じてカンファレンスを開き、家族が混乱しないよう全スタッフで意見を統一し対応するようにしている。		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	グループホームでできることか、他のサービスを利用した方がよいのか相談員と連携し必要とする支援を見極める努力をしている。		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	いきなり契約ということを行わず、何度か見学や体験入居等をおこなってもらい、利用者が納得したうえで入居してもらうにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	本人本位ということをし、何にでも手を出すのではなく、出来る事は取り組んでもらったり、逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には必ず状態報告や日常会話等コミュニケーションを密に行っている。ケアプラン作成の際は家族の意見を必ず聞き一緒に本人を支えていく関係を構築している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	契約時家族状況を把握し、生活していく上で機会があるごとに本人のここでの様子を報告している。時に主治医より病状説明をしてもらい、現状を理解してもらった上で関係が保てるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所への外出や馴染みの人との交流を積極的に行ない関係が途切れないようにしている。また、ご本人の自宅訪問した際には、ご近所の方に挨拶を行なう等行なっている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々により関係が異なる為、様子を見ながら時にはスタッフが介入し、利用者同士が支え合える関わりがもてるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域包括支援センターや、高齢者カンファレンスで情報を得て、必要時は転院先へのお見舞いや訪問を行ったりしている。		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの性格や生活歴等から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチをおこなっている。毎日のコミュニケーションの中で、把握は出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集や入居経路からの方法を得て、これまでの生活状況の把握を行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事・排泄・清潔・睡眠状態など1日の生活を通して把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスの意見を踏まえたうえで、それぞれの担当者がケアプランを作成し、計画作成担当者が最終的に目を通す形にしている。家族の意見についても面会時に聞いて、それらを反映させたケアプランを作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に1回、モニタリングを行ったうえで見直しをし新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合は、その都度見直しをおこなうようにしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の入居者一人一人の特徴や状況が把握できる内容をパソコンに入力し、それを元にカンファレンスを行ない全スタッフと実践することを統一し観察しながら、今後の介護計画につなげるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、今どのようなことが必要なかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	シルバー人材センターの利用やマッサージ等のボランティアの利用、民生委員との相談・市の施設の利用など、個々の意向や必要性に応じた資源が利用できるよう努めている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて地域包括支援センターやケアマネージャーなどに相談をし、本人の意向に沿ったサービスが利用できるような連携を図っている。また、金銭管理の方法等についても他の事業者と相談を行なっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	週一回高齢者カンファレンスで地域包括支援センターの職員等に相談を持つ機会を設け、何かあれば個別に相談に向いている。また、必要に応じて市役所職員にも相談を行なっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々かかりつけ医への受診を継続している利用者もいれば、近所の内科受診を希望されている利用者もいる。いずれも本人や家族の意見を尊重したうえで支援を行なっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体である病院に認知症専門のDrが常勤している為、いつでも相談できる体制がある。また毎週水曜日高齢者カンファレンスで相談し早目の受診ができるように努めている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護職員がおり、気軽に相談しながら支援できている。また、事業所・法人内にも利用者をよく知る看護職員がおり、様々な相談手段もあり、相談しやすい環境が整っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の洋服選びやご飯の量、外食時のメニュー選びまた外出先の希望等生活のあらゆる場面において希望を聞く支援がある。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、それにとらわれず、臨機応変に対応するようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を理容したり、馴染みの美容室の理容については家族へ協力をお願いする等、利用者それぞれに応じて対応している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけでなく、利用者にも配膳や片付け等、それぞれが負担にならないよう、できる部分を手伝ってもらいながら、一緒に食事を楽しむことのできる雰囲気づくりに努めている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その都度、自動販売機を利用したり、近くの商店へ共に買い物に出向き本人が望む飲み物やおやつを購入できるようにしている。また、家族へ本人の希望を伝え、持参していただく事もある。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時はその都度チェック表へ記録し、時間・失禁の有無・1日の排泄回数など個人記録に記録している。記録を参考にパターンを把握し、それに基づいてトイレ誘導を行い、気持ちよく排泄が出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であり、日曜日は併設する施設の「温泉」に入浴できるようになっている。日頃の入浴の時間帯は決めているが、利用者の希望に応じて臨機応変に対応している。また、入浴されない方へは、足浴を勧めるなどしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家事への参加や日中の散歩・外出・活動などを通じて1日のリズムを作っており、必要・希望時は日中休んでいただくなどしている。夜間寝付けない利用者に対しては、話を傾聴したり一緒にテレビを観たり、付き添うなど安心して眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が持っている力を活かして、食事の準備や手芸、庭の手入れ等それぞれの役割、また楽しみ事としておこなってもらえるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族と相談のうえ利用者ごとに管理して頂いており、紛失や不安にならないよう定期的に残金や収納場所を共に確認するなど、それぞれに応じた対応をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買い物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に外にでる機会を持っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が希望する食べ物が食べられる店へ行く事や公用車を使用して遠出する企画を時折立てている。またスタッフ同伴で個別に買い物をしに出かけ、なじみの美容室や店などあれば家族に協力して頂き一緒に外出できる機会を増やしてもらおう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話制限や手紙制限等はしていない為本人の要望に応じその都度対応をおこなっている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際は入居者本人の自室に誘導をおこなったりホールでも構わないと言われればホールで一緒に過ごして貰ったりと面会に来られた方が居心地よく過ごしていただけるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてマニュアルを作成し、身体拘束ゼロへの手引きについて協議し、身体拘束について正しく認識しており、身体拘束のないケアへの実践に取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自由に出入りができ、入居者の行動をよく観察し、その都度声かけや一緒に出かける等の配慮を行なっている。やむを得ず鍵をかける場合は根拠が明白で、他のスタッフに声かけしその理由を家族に説明できるよう努めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にホールに1名スタッフがいるようにし、利用者の所在や様子を観察・把握している。居室で過ごされる入居者の元へはこまめに訪室するようにしている。夜間は1時間毎に巡回し、状態把握に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すぐになくしてしまうのではなく、スタッフ間で話し合い、必要時は御家族に相談し、保管場所を検討し変更したり、目隠しをするなど工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎日のカンファレンスの際に協議、検討しており更に月2回の法人全体の会議において協議している。また、パソコン上で事故内容や対応策をスタッフが把握できる体制となっておりそれを元に事故防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	意識消失や誤嚥、痙攣発作時の対応マニュアルがあり、スタッフ同士のシミュレーションを行なって、慌てずに対応できるよう努めている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回併設施設の介護老人保健施設と合同で日中もしくは夜間帯を想定しての避難訓練があり、訓練を通して避難経路や避難場所、誘導や連絡方法を習得している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時家族へ転倒の危険性等話し、入居者一人一人の起こり得るリスクが軽減するよう対応策をカンファレンスし、ケアプラン説明時や家族面会時に話しご家族と共に実践している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時のバイタル測定をし日々の体調を把握している。体調の異変や変化があった場合は一人で判断せず日中いるスタッフと共に状態把握し、当院のDrに指示をもらったり、家族に協力していただきかかりつけの病院へ受診してもらうよう働きかけている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬説明ファイルによって薬の目的や副作用、用法等を把握している。薬の変更時は業務日誌やすこやかさんへ記載して症状の変化等について注意を促す工夫がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を積極的に行い、腹部マッサージやトイレ誘導をして排泄できる体勢を整える。また日中利用者に応じて負担にならない程度に軽体操や運動を取り組み同じ姿勢や筋力低下にならないよう努めている。利用者により異なるが便秘3日目となると便秘薬を利用して排便を誘発し、腸の病気に繋がらないよう配慮している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけや見守り、すべてできない方はできるところまで自分で行なってもらいその後は介助が行なわれている。口腔内の清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は委託した業者が行っており、献立も栄養士が立てたものである為、おおよそのカロリーの把握はできている。記録に食事摂取量を記入し、積極的に水分摂取できるよう働きかけを行ないながら、それぞれの状況の把握に努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する対応マニュアルがあり、スタッフはマニュアルに準じて実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に関して委託しているものの、食品に関しては余計な食品は保存せず、生鮮食品は毎日配達されており、布巾やまな板は毎日消毒し、包丁は除菌スプレーを使用する等衛生管理に関する取り組みについて把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設事業所との複合施設ではあるものの、建物の出入り口に緑を配置したり、ホーム出入り口には木の格子を用いる等、違和感なく気軽に入れる雰囲気がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓や椅子等、一般家庭で使用しているような物が配置されており心地よく過ごせる空間作りを心掛けている。また所々庭で採れた生花や観葉植物を飾り、季節に応じた手作りの絵を貼るなどして季節を感じとれるよう配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビや音楽鑑賞し、利用者同士が集まりやすい空間を作っている。またテーブル席を2箇所にするによって一人で新聞を読んだり読書や作業ができるスペースを確保しそれぞれの性格に合わせて好きに過ごしてもらうことができる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には好みのものや使い慣れた家具や寝具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地良く生活できる空間になるよう工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール窓、利用者了承の元それぞれの居室窓とドアを定期的に開放し換気に努めている。冬には除湿器を使用し乾燥を防いでいる。季節によりそれぞれ利用者の居室、ホールで寒すぎず暑過ぎないよう利用者に確認をとりながらこまめに調節を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線となる部分は大きな物を置かず、広く幅をとって歩行の妨げにならないよう配慮している。つたえ歩きが出来る方になるだけ手すりや洗面台・棚・ソファや椅子の背を利用して、見守りで自ら動けるよう居室やホールの環境を整えている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室で物が多く混乱が続く場合は、家族と協力して本人の持ち物を少なくし日々説明しながら物の場所が分かるようにしている。また、タンスにラベルを貼り本人がどこに何を置くのか明確にし、自ら片付ける事ができるようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではベンチに座って植えてる野菜や花をゆったりと観賞できたり、外の空気を吸って気分転換ができるよう配置している。また晴天で暖かい日に庭でレクリエーションや時々テーブルと椅子を出して昼食をとることや、園芸作業を行なって入居者の違った表情をみることができる。外回りではよく散歩コースとして利用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「懐かしい思い出の会」という回想法を元にしたものを週2回行なっている。これは筑紫野市歴史博物館より昔懐かしの物品を数点借りて、昔の生活や環境・物品の使用方法等思い出してもらい、考え、話すことで脳の活性化へつなげている。時折2グループにして少人数で行う事により入居者の違った一面をより多く見る事ができ、スタッフや他入居者と更に顔なじみになれるような場を設けている。